

## 【冬芝ライグラスオーバーシード作業要領 50 m<sup>2</sup>モデル】

ライグラスオーバーシード（ウィンタートランジッション）

風のない日に 大雨の予報のない時に

1. 播種量：オーバーシードは 30g～50g/m<sup>2</sup> (使用頻度により)

例) 40g/m<sup>2</sup> × 50 m<sup>2</sup> = 2kg

2. 播種時期：発芽適温 18°C～22°C 農業では昔から“彼岸に播け”と言う。

10月 (毎年の残暑により差がある)

3. 播き方のコツ (手順、要領)

(1) 現在の芝生、またはイワダレソウを可能な限り低刈りする。

芝刈機の能力によるが床地が見える程度でも可。

(2) 種子を計量：手直し追播用に少し残して保管。

35g/m<sup>2</sup> × 50 m<sup>2</sup> = 1.75kg (0.25kg 残す)

(3) 増量材で增量する。1 m<sup>2</sup>に 35g 均等に播くのは至難のため、ピートモス、バーク堆肥など種子と比重の近いもので約 100 倍 ≈ 200 リットルに增量してよく混ぜる。

**ピートモス、発芽促進剤等を調合した增量材(種子と同額で販売中)**

(特に 100 倍にこだわる必要なく、10 倍でも 50 倍でも蒔きやすいように增量)

※目的：保湿、発芽率アップ、色付けにより均一作業がしやすい。

(4) これをタテ、ヨコ、斜め“少量多数回数”で均一に。指間から肩高辺りから。

(5) 覆土：3～5mm厚 砂、マサ土等で目土。保水、発芽促進、種のズレ流亡防止。

(6) 散水：シャワー状に優しく、鉄砲水で種子や覆土をズラさない。

(7) 発芽まで 5 日 → 新芽の 2 週間毎日 1～2 回散水、湿状態を維持する。

(8) 3 週間位で 30mm～50mm 高になり、40mm ↓ 35mm ↓ 30mm ↓ と刈る毎に刈高を下げる。

※当分の間 現存の芝、イワダレソウと混在し、寒くなれば休眠、ライグラスのみとなる。

※芝刈り機で刈込むと若い葉は、引き抜かれるので手刈りで頭をカット、広範囲の場合

50mm まで伸ばしてから芝刈り機で少しづつ刈込、数回で立派な葉に成長。

### <注>

- ① 大面積の場合は、床地にバーチカル筋を入れて種子のズレ止め、目土の節約乾燥防止等を行うことがある。
- ② 大面積の播種器で均等播種を行うが、今回不要。
- ③ 計画地以外に種が飛ばないよう、フィルムシート、コンパネ、段ボール等で境界養生する。
- ④ 新芽に対する初期の肥料は、肥料あたりの暖かい液肥を与える。(1 回目刈込後で良い)  
(# 2 号、1 号他メネデール等) 市販のものです。
- ⑤ 発芽不十分、ムラに対し同要領で追い播きする。

株式会社芝匠

<http://www.shibafuya.com>